

令和5年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立岡部小学校

校長 木村 実

1 学校経営方針(概要)

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来、学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びの実現、学校教育目標の実現に必要な教育内容を教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させるべく、カリキュラム・マネジメントの充実、更には『令和の日本型学校教育』にも示されている、GIGAスクール構想に基づく個別最適化された学びと協働的な学びを一体的に充実することも求められている。

また、四條畷市教育振興基本計画の基本理念である『みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～』を受け、本校において学校教育目標を「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成とし、学校経営の核と位置づけ、この目標を達成するため、計画的、継続的に見直しを図りながら、学校を安心安全の場とし、児童一人ひとりにとって温かい居場所がある学校を教職員と共に創造していきたい。

その根幹をなす『授業づくり』と『集団づくり』を2本柱とし、この両輪を有機的、効率的に機能させ、教職員のベクトルを揃え、学校を運営していく。

また、学校教育目標の実現には、教科横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの視点も充実させ、知・徳・体バランスのとれた「生きる力」を育む教育活動を展開し、未来にはばたく子ども達の育成に努めたい。

具体的に、学校経営の視点として、以下5点を示す。

- (1) 学力向上を図る教育の推進
- (2) 人権教育、心の教育の充実
- (3) 安心安全で、魅力ある学校づくり
- (4) 家庭、地域との連携
- (5) 組織的な学校運営と人材の育成

これらを実現するために、FOT(For Okabe Time)を創設し、有機的、機能的な学校運営を行う。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもが生き生きと活動する安心安全な学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いに切磋琢磨し高め合う学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子 ○「お・か・べ」・・・「お」もいやる 「か」んしゃする 「べ」ストをつくす ・相手の気持ちを考える優しく豊かな心の子 ・自分の弱さに負けない強くたくましい心の子
★めざす教師像	○子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できる教師 ○人間愛にあふれ、明るく前向きに職務を遂行できる教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。高学年になるとリーダーシップを発揮し、自主活動を積極的に展開していく。そんな強みを持つ児童に対し、さらに求めたいのは、他者の思いを慮ったり、自分の思いを様々な表現で表したりすることである。

教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

広い運動場、自然に囲まれた環境に加え、中規模改修以降、明るくきれいな校舎内や教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが市より貸与されている。ソフト面においても、教職員の指導のもと、学習規律を大切に、落ち着いた雰囲気での学習活動に取り組むことができている。

②地域

地域は学校に対して協力を惜しまない恵まれた環境である。関係自治会の方々とは、学校だよりを持参し、時々において情報交換を行うなか、連携を図らせてもらっている。

③組織(教職員、PTA、保護者)

●教職員 学校教育目標の実現のため、ベクトルを揃え日々教育活動に熱意をもって取り組んでいる。

●PTA、保護者 令和5年3月に大きな規則改正を行ったため、任意団体を意識した活動を今後模索していく。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
学校の教育力の充実		市授業改善に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
全学年での研究授業の実施	100% ※R4 100%	100%	今年度研究テーマを『数学的な見方・考え方を深め、自分の考えを図や絵、言葉を使って伝え合える子どもたちの育成』とし、授業改善を目的とした研究授業を全学年で行った。市域への発信も継続し、研究を深めている。
授業はわかりやすく楽しい (児)	(児)92% ※R4 91%	(児)87%	令和4年度と比較すると、5ptの下落が見られ、目標値は達成されていない。これまで以上に、授業の工夫として、ICT機器の活用をはじめ各時間のめあての提示や具体物の提示、振り返りの充実など「わかる」授業を心がけていく。
学校に行くのが楽しい (保)(児)	(児)85% ※R4 83% (保)92% ※R4 91%	(児)79% (保)91%	令和4年度と比較すると4pt下落しており、目標値は達成されていない。学校が楽しいと思える要因として、授業が楽しい、友達に会える、新しい学びがあるなど、個々人により相違はあるが、いずれかを実感させるためにも、発達支持的生徒指導の視点を教職員

			で共有し、教室や学年、学校での居場所確保に努めていく。
担任等はお子さんの気持ちを理解し、家庭と適切に連携を図っている(保)	(保) 95% ※R4 92%	(保) 92%	数値は変わっていないことから、一定の連携が図れていたと捉えている。保護者との連携は必須であり、共に同じ方向を向いて児童に向き合うことが大切と考える。数値は昨年度と変わらず、概ね連携を図れていると捉えている。
自分を大切にすることや相手への思いやり、感謝について道徳などで学んでいる(児)(保)	(児) 98% (保) 96%	(児) 95% (保) 92%	令和4年度と比較して、児童、保護者共に微減しているが、概ね高い数値で達成されていると捉えている。各学年において学年目標を掲げ、その実現に向け様々な取組みを行っている。また、道徳の時間を要として、学校教育活動全体を通して道徳教育推進に取り組んでいる。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している	(教) 100% ※R4 94%	100%	全教職員で子どもたちに関わっていく体制として、FOT(For Okabe Time)を創設し、学校組織として一人ひとりの役割を果たすことで、協働的に学校運営を行うことができた。そのこともあり、報告、連絡、相談を心がけ、分掌間、学年間では風通しよく連携は取れている。今後はより有機的に機能するよう、それぞれの発達段階や教育課程を考慮し、交換授業をはじめ様々な仕掛けを行い、必要な連携を行っていく。
様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心となって取り組んでいる	(教) 100% ※R4 100%	100%	生活指導部からの発信で、児童にまつわる事案について全体化していたことから、全員の教員が事案を共有し、それぞれの立場から指導していくことができるようになった。 また、保護者からの相談や地域住民からの学校に対するご意見等について、迅速な対応を心がけた。 更に、発達支持的生徒指導として、児童会活動や委員会活動を中心に、子どもの自主性、主体性を尊重し、より良い岡部小を作る担い手として、取組みを行ってきた。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
教職員の資質の向上		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
初任者など経験の浅い教	(教) 90%	93%	全学年研究授業を取り組むことで、経験の浅い教員

職員を学校全体で育成している	※R4 89%		の育成に努めることができた。また、学年間の連携を行い、どのように指導するかを共有する中、指導の方法についても学ぶ機会は日常的なものとなっていた。合わせて初任者による研究授業を実施した際には、ほとんどの教員が研究授業に参加し、反省会では自分の経験も踏まえた助言を行い、初任者の育成に寄与している。
服務、不祥事の防止について、職員会議で周知徹底を図る	(教) 100% ※R4 100%	100%	服務、不祥事防止について、府からの通知やセルフチェックシートなどを活用し、自身の問題として意識できるよう周知を図ってきた。ICT 機器を活用し、聞かだけの研修に終わらず、不祥事から発生する影響などを考え合い、その内容を共有することで、更に考えを深めることができた。 また、新聞記事や大阪府の教職員の処分に関する情報を随時紹介し、不祥事防止に努めた。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校運営協議会で成果や課題に対する助言の共有内容 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
ホームページ更新	月2回以上 ※R4 月2回以上	月2回以上	学校だより、学力向上通信、保健だよりのほか、学校行事に関するお知らせや保護者への連絡など、掲載可能なものはすべてHP上で公開してきた。併せて、マチコミタイムラインで送付した写真を活用し、学年のようすとして教育活動の一部も掲載してきた。結果保護者からも適宜情報発信していることについて、約96%の肯定的な回答が得られた(学校教育自己診断より)。
学校運営協議会の活用	年5回以上の会議を実施	年間6回の会議を実施	年間6回の会議を持つことで、より具体的にどのような行動をしていくのかを委員さんたちと協議してきた。結果、次年度から活動に入れる枠組みを整えることができた。今後、実施する内容をさらに精査し、ボランティアを募ったり、実際に活動したりするなかで、活動内容の調整等について、検討を重ねていく必要がある。
宿題を含む家庭学習では、15分×学年の時間を取組んでいる	(児) 60% ※R4 57%	55%	令和4年度と比較すると微減している状況で、依然として家庭学習の定着については、課題を感じている。時間の確保も必要であるが、家庭学習の内容を充実させるために、児童下足室前に自主学習の好事例や教職員が作成した大人の本気自主学習などを掲示し、意欲喚起を図ってきた。また、AI型ドリルの解説を活用したハイブリッドな自主学習や、スクールタクトを使った自主学習など、多様な学び方があることも児童に指導していく。

今後は児童自ら課題を設定し、自主的に問題解決できるような道筋を示していきたい。

5 総合評価と次年度に向けて

①学校教育自己診断より

【児童アンケートより】

肯定的回答が多かった順に、「タブレットパソコン、大型テレビ、書画カメラ、を使った授業は、わかりやすい。」(91%)、「通知表の成績には納得ができる。」(90%)、「学校では、一人ひとりが大切にされている。」(88%)となっている。ICTを活用した授業については授業で積極的に活用できるようミニ研修を随時実施したり、活用好事例を共有したりするなど授業改善を図ってきた結果であると考え。また、通知票、一人ひとりが大切にされるについても、児童理解研修のもと、児童の困り感に寄り添い、状況に応じて適切なサポートができていたと考える。

逆に、肯定的回答が少なかった順に「宿題を含む家庭学習では、「15分×学年」の時間を取り組んでいる。」(55%)「授業や学級会などでは、意見を発表するようにしている。」(61%)、「すいすいタイムやもくもくタイムで書く力、伝える力、説明する力などがついた。」(69%)という結果となった。家庭学習や自学自習について、自主学交流会や通信発行などで意欲喚起してきたが、今後はそれらの継続とともに、新しい違う角度からのアプローチが必要と考える。

【保護者アンケートより】

肯定的回答が多い順に、「安全指導(様々な避難訓練や交通安全教室など)の取組みは適切だと思いますか？」(98%)、「安全のため、正門で来校者の出入りを確認していることは、適切だと思いますか？」(97%)、「個人懇談等では、お子さんの学習や生活の様子などが分かるように説明されていると思いますか？」「学校は、ホームページ更新やメール配信などを通じて適宜情報を発信していると思いますか？」(いずれも96%)となっている。特に安全に関しては、正門に学校安全協議会の方々が見守っていることに加え、避難訓練の実施など保護者を安心させる取組みが多かったのではないかと。また、学校生活の説明や情報発信についても、高い数字で肯定されていることから、今後も保護者との連携を図るためにも継続していきたい。

逆に、肯定的回答が少なかった順に、「タブレット端末は、授業や宿題などで有効に活用されていると思いますか？」(74%)、「すいすいタイム(絵や図に表す)、もくもくタイム(読解)が学力向上につながっていると思いますか？」(80%)、「お子さんの宿題や自主学ノートを見たり、それについて話したり機会がありますか？」(82%)となった。特にタブレット端末の活用については、更なる活用を保護者が求めていると捉え、より有効的な活用について研究していく。

②教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

項目	肯定的回答(%)		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
自分には良いところがあると思う児童の割合	89.7%	80.0% (↓)	82.7% (↑)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	95.6%	92.9% (↓)	93.3% (↑)
将来の夢や目標を持っている児童の割合	79.4%	77.2% (↓)	74.7% (↓)

③総合評価

今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことに伴い、コロナ禍で整理されたこと、コロナ前に実施していたことなどを総合的にとらえ、学校行事をはじめすべての教育課程の見直しを図る機会となった。その結果、教育課程が精選され、より児童の実態に即した教育活動を行えたことは成果と言える。

あわせて、学校体制の見直しを図ったことにより、全職員で児童を見守っていく、サポートしていくことを心がけてきたことで、個に応じた支援体制を組むこともできたことも成果と言える。

これらのことから、めざす学校像、めざす教職員像についてはおおむね達成されていると捉えているが、めざす子ども

も像のうち、「何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子」については、今年度も児童アンケートからもまだまだ苦手意識を持つ児童が多い。このことから、児童一人ひとりの意思を尊重しつつ、安心できる居場所、環境づくり、学校づくりを強く推進していく必要がある。

④次年度に向けて

授業改善と集団づくりは学校運営の両輪とし、安心して安全な居場所づくりと、「わかった」「できた」が響き渡り、自分の存在が認められていると感じる児童の姿を見ることをめざし校長として、教職員が一丸となって取り組めるような環境の醸成を図っていきたい。